

## ご挨拶

私が天龍村教育委員であった平成 21 年（2009）に当時の教育長の板倉氏から「天龍村指定文化財」を現在指定されている文化財を含め村内全ての文化財の見直しと、指定としての可否を再検討するようとの指示を受けました。私が事務局となり村内の有識者 6 名の方と共に月に 1 回のペースで会合を持ち現地調査等を含め約 3 年間の調査の結果を教育長に答申しました。

その過程で数多くの物件を調査し検討しましたが、その物件の中で、第二次世界大戦中に中国大陸より強制的に日本に連行され、強制的に厳しい労働に従事させられ、そのために亡くなられた多くの中国人の方の慰霊碑、またフィリピンの戦で日本軍の捕虜となりこの地に連行され、強制労働で亡くなられた多くの連合軍兵士の慰霊碑について、村の文化財として登録するか否か、長い時間をかけて議論いたしました。

その過程で終戦翌年の昭和 20 年（1945）に GHQ（連合軍最高司令官総司令部）が日本の外務省に命じ、日本が強制連行した約 4 万人の中国人の実体を調査させた報告書『中国人強制連行の記録』に出会い、その報告書の記述内容に驚き当時の悲惨な出来事を知りました、そしてこの本を読むことによって、この村内に於いても悲惨な歴史があることを教えられ、この慰霊碑はその出来事を後世に伝えるものであることの意味を理解しました。

文化財として登録の可否は、過去の大きな出来事であり後世に伝え残していかなければならないとの意見は一致しましたが、文化財としての観点から「戦争に関わる悲惨な出来事の証を文化財として登録すべきだろうか」との疑問が残り、今回はこの慰

霊碑の登録を見送ることといたしました。

ただ議論の中で幾度となく出て参りましたのは、この悲惨な出来事を後世に語り継ぎ、中国人慰霊碑の裏面に彫り込んで有ります、李徳全女史の「恒久平和」の思いを機会ある毎に思い出し、伝えていかねばならない、ことは全員一致した意見でした。そうした経緯から、私個人の考えとして、読みにくい GHQ の報告書を抜粋し、もう少し読みやすい文章、分かり易い文章にして、この出来事に関心のある人が容易に読むことが出来るようにまとめました。

注意しましたことは、私の感情は入れず、氏名等固有名詞は読み難い漢字もそのまま使い、資料のありのままを伝えることに注意しました。

未だ慣れないパソコン操作で苦労しました、特に中国人氏名を入力するのに当用漢字以外の文字が多く、読み方が分らず漢字に変換しようとしても、打ち込んだひらがなでは漢字表示がされず、漢字辞書を参考に調べ、1字打ち込むのに数分かかってしまうこともしばしばでした。

慣れないパソコンの扱いで、遅々として進まない作業をしているうちに、疲れてしまい眠気をもよおすことも度々でした、その度に「今、俺が打ち込んでいるこの名前の中国人の方は、この時、疲れた、眠いなど言っている状態ではなかった筈だ、冬の冷気のなか、1・2枚の薄着で河原の作業を強いられていた人なんだ！」と思い直し資料の作成を頑張りました。(でも、けっこうサボりましたが)

GHQ 資料のまとめの後は、図書館にあった、『村史』『満島収容所捕虜生活と解放の記録』『戦争を掘る』などの本の他、習いたてのインターネットで強制連行に関わる項目を検索して調べましたその他、近代史の朝鮮半島や中国と日本の関わり、など戦

争の悲劇に関わるいくつかの項目も調べました。

インターネットで検索した中には、そのままプリントアウトして、資料として使用した物もあります。

そうして私なりに作成した資料には、かなり悲惨でどぎつく、読みたくないと思われるような箇所もありますがオブラートに包むような表現はしませんでした、「これが戦争の実体なんだ」との思いからです。

こうして、戦争にまつわる悲惨な出来事を、語り伝えるための参考資料として使える様にしました、また誰でも望む人がいれば、差し上げることにしております。

そうして1人でも多くの方が戦争の悲惨（つらさ・悲しみ・悔しさ・痛さ・寒さ・苦しみ・惨めさ・怒り・酷い・残忍・・・・）を知り、戦争のない世の中を望む人が1人でも2人でも増えてくれれば良いな一と思っています。

皆さんに反戦運動家になることを望んでいるわけではありません。

ただ、戦争で犠牲になった人達の悲惨を感じ取り思いを馳せ、今の貴方の平和と幸せを感じて頂きたいのです。

2022年11月7日

川上正明